# 複数 保内まちごとアートガーデンプロジェクト

主催：保内まちごとアートガーデンプロジェクト実行委員会

直径2.1mの巨大苔玉

ミニガーデンの制作風景と室内庭園

## 農業高校生と植木職人の連携で、庭や花の魅力を新潟中に発信！

春・秋期は加茂農林高等学校の草花コース2・3年生40名を8チームに分けて1m×1mのミニガーデンの制作を目的に掲げる。事前準備として２月に学校に伺い、特別授業としてミニガーデンの施工を実演する。3・4月には各自で調べ学習、デザイン画作製に取り組んでもらい、プロジェクト用に被災地で生産された植物を準備した。4月中旬より保内地区の植木職人指導のもと、会場である道の駅 庭園の郷 保内でミニガーデン制作を行っていく。添景物である竹垣の作製や春の樹木や草花の植栽、全体を引きしめる苔や砂利の足元は装飾・事前学習の成果もあり、完成時には多くのお客様の目を楽しませる結果となった。被災地への募金も集まった。投票により選ばれた優秀作品には表彰等を行い、各自の努力を評価した。

夏期開催は、8月8日に新潟伊勢丹で2.5m×2.5mの室内庭園を制作。朽ちた竹や枯れた木、ドライフラワー等と青竹や季節の新鮮な草花を使い、朽ちた生物への畏敬と新しく生きる命への対比を表現した庭園を造る。２週間という室内庭園としては非常に長期間の展示となったが、生徒達と共にメンテナンスに赴くなど様々な協力があり、展示期間満了。

10月からは秋期ガーデンコンテストを開催。春の経験を活かし秋ならではの紅葉物や実物、花物を使用した。春期は初めての試みで不慣れな面も見受けられたが、反省や実現したい装飾に対する強い気持ちが作品に反映され、結果として春期以上の反響を得る事ができた。

最終プロジェクトとして世界一の苔玉を制作。直径が2.1mと前例が無いサイズだ。スタイロフォームで苔玉の球体の骨組みを作り、約200ケースのハイゴケを貼り付けた。若い高校生の力が無ければとても困難な作業であった。苦労のかいがあり、各種メディアに掲載され本プロジェクト史上最大の反響を得た。

- 4月27日(金)～5月31日(木)　ミニガーデン制作・展示（道の駅庭園の郷 保内）
- 8月8日(水)～8月21日(火)　室内庭園制作・展示（新潟伊勢丹）
- 9月1日(土)～10月8日(月・祝)　ガーデンコンテスト・展示（道の駅庭園の郷 保内）

# 複数 保内まちごとアートガーデンプロジェクト

主催：保内まちごとアートガーデンプロジェクト実行委員会

直径2.1mの巨大苔玉

## 保内まちごとアートガーデン

（春期・三条会場）4月27日(金) ～5月31日(木)　9：00～18：00
道の駅 庭園の郷 保内（三条市下保内4035番地）
（夏期・新潟会場）8月8日(水) ～8月21日(火)　10：00～19：30
新潟伊勢丹（新潟市中央区八千代１丁目6-1）
（秋期・三条会場）9月1日(土)～10月8日(月・祝)　9：00～18：00
道の駅 庭園の郷 保内（三条市下保内4035番地）
来場者数：3会場合計　1,919人
被災地で育った植物を使用したミニガーデンや園芸作品を通して、水と土は生物をはぐくむ尊いものだと伝えたいという思いのもと、加茂農林高等学校の草花コース2・3年生と保内の植木職人が一緒に制作を行った。春・秋期は高校生8チームによるミニガーデンを制作。花材などの調べ学習、デザイン画から取り組んでもらい、いきいきとした作品に仕上がった。夏期は8月に室内庭園を制作。枯れた植物、ドライフラワーと青竹、新鮮な植物を左右に分けて配置することで、朽ちた生物への畏敬と新しく生きる命への対比を表現した庭園を造る。生徒達と共にメンテナンスに赴くなど努力のかいがあり、多くの来場者に興味をもっていただけた。最終プロジェクトとして直径2.1mの世界一の苔玉を制作。スタイロフォームで骨組みを作り、約200ケースのハイゴケを貼り付けた。高校生たちは作業に励み、各メディアに掲載され本プロジェクト史上最大の反響を得た。